
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.212 2020/2/26

1 食品安全委員会食品安全総合情報システム

1月27日公表した標記情報に次の記事が掲載されている。

https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?keyword=%EF%BC%AC%EF%BC%A4%EF%BC%95%EF%BC%90&query=&logic=and&calendar=japanese&year=&from=struct&from_year=2020&from_month=01&from_day=25&to=struct&to_year=2020&to_month=02&to_day=06&areaId=00&countryId=000&informationSourceId=0000&max=100&sort_order=date.desc

(1) 欧州疾病予防管理センター (ECDC)、サルモネラ症に関する2017年疫学報告書を公表

欧州疾病予防管理センター (ECDC) は1月30日、サルモネラ症に関する2017年疫学報告書(8ページ)を公表した。主な内容は以下のとおり。

1. サルモネラ症は欧州連合/欧州経済領域 (EU/EEA) において2番目に多く報告された胃腸感染症であり、集団食中毒の重要な原因である。
2. 2017年は92,649件の検査確定症例が報告され、うち156名が死亡している。
3. EU/EEAでの届出率は人口10万対19.6症例であった。
4. サルモネラ症届出率は長期間低減傾向にあったが、その後の直近5年間は一定であった。
5. 届出率は0～4歳児が人口10万対94.1症例で最も高く、成人(25～64歳)の8倍であった。
6. 2017年では、サルモネラ属菌は集団食中毒の原因として最も多く、報告された集団食中毒事例の24%(1,241件)を占めた。卵及び卵製品が引き続き集団感染の媒介物として最も多く確認されている。

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05310340470>

(2) 欧州疾病予防管理センター (ECDC)、リステリア症に関する2017年疫学報告書を公表

欧州疾病予防管理センター (ECDC) は1月30日、リステリア症に関する2017年疫学報告書(6ページ)を公表した。主な内容は以下のとおり。

1. 2017年は、欧州連合/欧州経済領域 (EU/EEA) の30か国からリステリア症確定症例が2,502件報告された。
2. EU/EEAの年齢調整届出率は人口10万対0.42症例であった。
3. 64歳超の人々で最も高い届出率(人口10万対1.7症例)がみられた。
4. EU/EEAにおけるリステリア症の年間症例数は増加傾向を示している。2013～2017年

の期間で、EU加盟5か国(ドイツ、イタリア、オランダ、ポーランド及びスペイン)で有意な増加傾向が報告され、有意な減少傾向がみられた加盟国はなかった。EU/EEAレベルでの増加は、高齢で感受性の高い人々の人口規模の絶対的増加が原因の一部の可能性がある。

5. 2017年では、合計10件(合計39症例を含む)のリステリア・モノサイトゲネスの集団感染が欧州食品安全機関(EFSA)に報告された。これらの集団感染のうち4件は強固なエビデンスのある集団感染としてオーストリア(2件)、デンマーク(1件)及びスウェーデン(1件)から報告された。関連した食品のカテゴリーは「チーズ」、「魚及び魚製品」、「肉及び肉製品」、及び「野菜及び野菜ジュース並びにこれらに関連する他製品」であった。

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05310350470>